

潮解(二二〇)
置換法(六八)
置換生成物(六八)
デユロン及プチーの法則(一五三)
沈澱硫黄(二六八)

り

硫酸(二八六)
硫酸の生成(二八七)
硫酸の製造(二九〇)
硫酸の性質(二九四)
硫酸の反応(二九六)
硫酸の分解(二九四)
硫酸と水との化合物(二九四)
硫酸根(二九八)
硫酸ニトロシル(二八八)
硫酸アンチモン(三九八)
燐(三五五)
燐の處在(三五五)
燐の製法(三五六)
燐の性質(三五八)
燐の酸化物(三八二)

燐の水酸化物(三八二)
燐族元素(三五三)
燐族元素の通論(三五三)
燐族元素のハロゲン化合物(三七三)
燐族元素の酸化物(三八二)
燐族元素の水化物(三六一)
燐族元素の水酸化物(三八二)
燐化水素(フオスフィーン)(三六二)
燐灰石(三五六)
燐光(三五八)
燐酸(三八六)
燐酸の構造(三九〇)
燐酸一ソヂウム水素(三八七)
燐酸二ソヂウム水素(三八七)
燐酸カルシウム(燐酸石灰)(三五六)
燐酸ソヂウム(三八七)

燐酸ソヂウム正鹽(三八六)
燐酸二ソヂウム(三八六)
燐酸銀(三八八)

ぬ

沼氣(四四六)

を

オルソ燐酸(燐酸)(三八六)
オルソアンチモン酸(三九七)
黄燐(三五八)
黄鐵鑽(二六六)
黄鐵銅鑽(二六七)
黄色血塩(五〇六)
王水(二〇三)
オゾン(一七七)

オゾンの鑑識法(一八二)
温度の瓦斯體の容積に於ける關係(七三七五)

わ

笑氣(三四四)

か

カロリー(九〇)
カロリメートル(九〇)
カルバミド(尿素)(四六二)
カルボキシル根(四五九)
カルボキシルベンジン(安息酸(四八三))
カルレ氏製氷器(三二八)
ガラス侵蝕力(弗化水素の)(二五九)

可燃物(八六)
褐鉛鑽(四〇三)
褐炭(四二五)
膈膜分別法(五二九)
膈膜分別器(五二九)
瓦斯の擴散(一〇四)
瓦斯體擴散の法則(一〇五)
瓦斯體の容積と壓力温度との關係(七五)
瓦斯體比重測定法(一四六)
瓦斯體の容積に關する法則(六九)
瓦斯溜(八一)
瓦斯炭(四二三)
乾餾法(木材の)(四一六)
乾餾法(瀝青炭の)(四三七)
間歇泉(五二六)

よ

ヨヂウム丁幾(二五三)
 溶解性硫黄(二六八)
 沃度ホルム(四五二)
 沃度製造法(二五〇)
 沃素(二四九)
 沃素の處在(二四九)
 沃素の製法(二五〇)
 沃素の性質(二五〇)
 沃素の水酸化物(二五五)
 沃素の鑑識法(二五二)
 沃素酸(二五五)
 沃化ボタシユム(二四九)
 沃化窒素(三五二)
 沃化燐(三七六)

沃化メチル(四五二)
 沃化エチル(四六五)
 沃化フオスファニユム(三六三)
 沃化水素(二五三)
 容積と反應量との關係(六九)

た

大理石(四八九)
 多鹽基酸(三三〇)
 多酸度鹽基(三三〇)
 卓石(五三〇)
 脫酸作用(二〇八)
 ガルトン氏原子説(二二八)
 單體(一八)
 炭素(四二〇)
 炭素の處在(四二〇)

炭素の同質異形體(四二二)
 炭素の種類(四二二)
 炭素の物理學的性質(四二七)
 炭素の化學的性質(四二七)
 炭素の水化物(炭化水素(四三〇))
 炭素の酸化物(四八七)
 炭素の水酸化物(四八七)
 炭素の鹽化物(五〇二)
 炭素の硫化物(五〇二)
 炭素のシヤン化合物(五〇六)
 炭素の鑑識法(四二八)
 炭素の燃焼(四二八)
 炭素と窒素の化合物(五〇六)
 炭化水素の種類(四三〇)
 炭化水素の分岐體(四四六)
 炭素族元素の提要(五三五)

炭酸(四九五)

炭酸瓦斯(二酸化炭素(四八七))

炭酸泉(二二五)

炭酸水(四九二)

炭酸ソヂユム水素(四九七)

炭酸銅(鹽基性(四九七))

蛋白石(五二四)

タンタラム(四〇五)

タンゲストン(三〇〇)

タンゲストン酸(三〇〇)

れ

レニール氏瓦斯体密度測定法

(一四七)

瀝青炭(四二五)

そ

ソヂユムアンモニユム(三二九)

ソリユム(五三三)

ソリユム鐵(五三〇・五三三)

組成不變の法則(三九)

相互比例の法則(四三・四六)

蒼鉛(三七二)

蒼鉛の處在(三七二)

蒼鉛の性質(三七二)

蒼鉛の酸化物(四〇〇)

蒼鉛の水酸化物(四〇〇)

蒼鉛のハロゼン化合物(三八〇)

蒼鉛華(四〇二)

蒼鉛酸(四〇〇)

ぬ

熱量計(カロリメートル(九〇・九二))

チスレル液(二二六)

燃焼(八二八六)

燃焼水素の(二〇五)

燃焼炭素の(二八九)

燃焼(一酸化炭素の(四九八))

燃焼(硫化水素の(二七二))

燃焼熱八九

な

鉛(五三四)

鉛族元素(五三四)

ナフタリン(四八六)

ナフタリン黄(四八六)

ら

ラバラック防臭液(二〇六)

ラムネ(四九二)

む

無煙炭(四二四)

無煙火薬(四八二)

無定形炭素(四一四)

無定形硅素(五一六)

紫水晶(五二四)

ろ

ウーロ氏合金(三七二)

ウラン(三〇〇)

埋木(四二五)

ヴァナヂウム(四〇三)

ヅナヂウム族元素(四〇三)

く

クロム酸(三〇〇)

クロム酸ポタシウム(三〇二)

クロム族元素(三〇〇)

クロム族元素の提要(三〇三)

クロロホルム(二)鹽化メチル

(四五三)

グラバー塔(二九二)

驅蟲劑(五〇六)

化學的變化(二)

化學の定義(九)

化學と物理學との關係(九)

化學方程式(五九)

化學の實用(九)

化學的エネルギー(九四)

化學の仕事(九四)

化學上計算法(九四)

化合(五)

化合の法則(三三四九)

化合物(一七二八)

化合物の性質(二四)

化合物の式(五六)

化合物の式并に化學方程式の説

明(六三)

化合物分解の方法(二五)

化合量(四八・一三三)

化合熱(九二)

過燐酸カルシウム(三五七)

過沃素酸(二五六)

過鹽素酸(二一〇)

過鹽素酸ポタシウム(二一〇)

過マンガン酸(二六二)

過マンガン酸ポタシウム(二六二)

け

硅素(五一五)

硅素の處在(五一五)

硅素の製法(五一五)

硅素の性質(五一五)

硅素族元素の通論(五一三)

硅化水素(五一七)

硅弗化水素(五二二)

硅酸(五二六)

硅藻土(五二五)

硅石(五二四)

雞冠石(三六四・三九六)

ゲールサックの瓦斯体に関する

法則(六九七二)

ゲールサック塔(二九二)

過酸化マンガン鐵(二六〇)

過酸化水素(一八〇)

過酸化水素の鑑識法(一八二)

過酸化窒素(三四八)

過硝酸(三五〇)

還元作用(二〇八)

還元劑(二〇八)

還元焰(四四二)

火氣(四四七)

活字金(アンチモンの)(三七〇)

緩慢なる酸化(八八)

空氣(三〇八)

空氣の組成(三〇八)

空氣の組成を確定する法(三二二)

空氣の含有物(三二二)

空氣の混合物たるを證する事實

(三〇九)

空氣中の二酸化炭素(三二二)

空氣中の水蒸氣(三二二)

空氣中のアンモニア(三二四)

クソツ(四四七)

ま

マーシユ氏砒素及びアンチモン

鑑識法(三六八)

麻睡劑(三四四・四五二)

マンガン(二五九)

マンガンの處在(二六〇)

マンガンの酸化物(二六〇)

マンガンの水酸化物(二六〇)

マンガン酸(二六二)

マンガン酸ポタシウム(二六二)

煙水晶(五二四)
 結晶水
 元素(二七)
 元素の定義(一八)
 元素の名稱(五〇)
 元素の記號(四九五〇)
 元素表(四九五〇)
 元素の化合量(二三三)
 元素の比熱表(一五五)
 元素の天然分類法(メンデレーフの)(二三三)
 元素の天然分類表に於ける位置と其化學的性質の關係(二三八)
 元素研究の順序(二四〇)
 元素(第六屬)の提要(三〇二)
 元素(第四屬)の提要(五三五)

元素第七屬の提要(二六二)
 原子(二二九)
 原子と分子との別(二三八)
 原子説(ダルトン氏の)(二二八)
 原子量(二三三)
 原子量測定法(二四三)
 原子量と元素の性質との關係(二三五)
 原子熱(二五三)
 原子熱の表(二五五)
 原子價(二六八)
 原子手(二七〇)

ふ
 フォスフィン(磷化水素)(三六二)
 フォスジン(鹽化カルボニル)(五〇三)

フェロシヤン酸ポタシユム(黄色血塩)(五〇六)
 物質(一)
 物質と重量の差異(二四)
 物質の不滅(二六)
 物質不滅の法則(三〇)
 物理學的變化(三)
 物体の組成(二二)
 物体の化合(五)
 物体の分解(二一九)
 物体の構成説(二二八)
 物体の燃焼(八五)
 風化(二二〇)
 複雑なるベンジン分岐体(四八五)
 複分解(九八)
 不燃物(八七)

分離作用(一一九)
 分解作用(一一九)
 分解熱(九三)
 分析法(三四)
 分子(一三六)
 分子と原子の別(二三八)
 分子説(アウガドロの)(一三六)
 分子量(一三二)
 分子量を以て原子量を測定する法(二四三)
 分子式(二四六)
 分別蒸餾(四七五)
 プンセン燈(四四二)
 葡萄酒の組成(四六六)
 弗素(二五六)
 弗素の處在(二五六)

弗素の製法(二五六)
 弗素の性質(二五六)
 弗化水素(二五七)
 弗化硅素(五二〇)
 弗化チタン(五三二)

こ
 氷(二二七)
 氷製造法(カルレ氏の)(三二八)
 硬水(二二四)
 構造式(二七〇)
 礦泉の種類(二二五)
 擴散(瓦斯の)(二三三)
 コーク(四二二)
 呼吸(動物の)(四八八)
 ゴム性硫黄(二六九)

酵母(四六七)
 合金(三七二)
 合成法(三四)
 骨炭(四二〇)
 黒鉛(四二二)
 五屬元素の一(三〇五)
 五屬元素の二(三五三)
 五屬元素の三(四〇三)
 五屬元素の提要(四〇五)
 五弗化磷(三七六)
 五鹽化ニオビユム(四〇四)
 五鹽化タンタラム(四〇五)
 五鹽化磷(三七三)
 五鹽化アンチモン(三七九)
 五鹽基酸(二三〇)
 五酸化ニオビユム(四〇四)

五酸化ヂヂミウム(四〇四)
 五酸化燐(三八三)
 五酸化タンタラム(四〇五)
 五酸化蒼鉛(四〇二)
 五酸化ヴァナヂウム(四〇四)
 五酸化アンチモン(三九八)
 五酸化砒素(三九四)
 五酸化窒素(三四九)
 根(二九八)
 金剛石(四二二)
 混合物の性質(三四)
 混合物分別の方法(三四)
 混合物と化合物の別(一九)

え

エチリン(四七三)
 エチリン均等系列(四三三)
 エタン(四六三)
 エタンの分岐体(四六三)
 エチル、アルコール(アルコール
 (四六六))
 エチル根(四六五)
 エーテル(酸化エチル(四六七))
 エーテルの製法(四六八)
 エネルギ―(二)
 エネルギ―の不滅(三二)
 エネルギ―不滅の法則(三三)
 鹽(九六・二四)
 鹽の種類(三三三)
 焰(四三九)
 鹽素(一八七)
 鹽素の處在(一八七)

鹽素の製法(二八七)
 鹽素の性質(一八九)
 鹽素の液化法(一九〇)
 鹽素の酸化力(一九二)
 鹽素の漂白力(一九三)
 鹽素と水素との結合力(一九三)
 鹽素の酸化物(二〇四)
 鹽素の水酸化物(二〇四)
 鹽素水(一九〇)
 鹽素水素の容積と鹽化水素瓦斯
 の容積との關係(一九四)
 鹽素水に於ける日光の關係
 (一九二)
 鹽素の消滅(二八六)
 鹽化物(一九二)
 鹽化ニトロシル(三五二)

鹽化メチル(四五〇)
 鹽化ニトロキシル(三五二)
 鹽化窒素(三五〇)
 鹽化エチル(四六四)
 鹽化臭素(二四八)
 鹽素酸(二〇七)
 鹽素酸ボタシユム(二〇八)
 鹽素酸加里(鹽酸加里(二〇八))
 鹽素酸ソヂユム(二〇八)
 鹽化水素(一九六)
 鹽化水素の性質(一九八)
 鹽化水素の製法(一九六)
 鹽化水素の金屬に於ける反應
 (二〇〇)
 鹽化カルボニル(フオスジシ)
 (五〇三)

鹽酸(一九七)
 鹽酸の製造法(一九七)
 鹽酸の電氣分解(一九四)
 鹽基(九五・二一〇・三三三)
 鹽基度(有機酸の)(四六〇)
 鹽基性反應(アルカリ性反應(二二三))
 鹽基性鹽(三三三)
 鹽基の酸度適度(二三〇)
 鹽基性酸化物(九六・二二三・三三三・三三四)
 鹽基性水酸化物(二二〇・三三四)
 鹽基性金屬(二二二・二二五)
 鉛室の結晶(二九〇)
 鉛室酸(二九二)
 鹽泉(二二五)

て

定數比例の法則(三四・三九)
 泥炭(四二五)
 鐵泉(二二五)
 テルリユム(二八〇)
 テルリユムの處在及性質(二八〇)
 テルリユムの酸化物及び水酸化
 物(三〇〇)
 テルリユム酸(二八一・三〇〇)
 適酸度(二三〇)
 デビー安全燈(四四六)
 天然瓦斯(四四七)
 天然水(二二四)

あ

藍(人工の)(四八七)
 アニリン(アミドベンジン(四八二))

アニリン色素(四八三)
 アリザリン(四八六)
 亜磷酸(三八五)
 亜硫酸(二八四)
 アルコール(エチル、アルコール)
 (四六六)
 アルコールの製法(四六七)
 アルコール分(酒類の)(四六六)
 アルデヒド(四七〇)
 アルデヒド根(四五八)
 亜オルン、アンチモン酸(三九七)
 アルカリ性酸化物(九五)
 アルカリ性反応(二二三)
 アルカリ臭(二二五)
 アルガロス末(三七八)
 アルシオン(砒化水素)(三六五)

亞鹽素酸(二〇七)
 亞テルリウム酸(二八一三〇〇)
 茜色素(四八六)
 アヴガドロの法則(一三八)
 亞酸化窒素(三四二)
 壓力の瓦斯容積に於ける關係
 (七四七五)
 亞硝酸(三四一)
 亞砒酸(三九二)
 亞アンチモン酸(三九七)
 亞セレンニウム酸(二七九二九九)
 アミド(四六〇)
 アミーン(四六〇)
 アミドベンジン(四八二)
 アミドトリユイオン(四八五)
 アセチリン(四七四)

アセチリン均等系列(四三五)
 アンチモン(三六八)
 アンチモンの處在(三六八)
 アンチモンの性質(三六九)
 アンチモンの製法(三六八)
 アンチモンの酸化物(三九七)
 アンチモンの水酸化物(三九七)
 アンチモンのハロゲン化合物
 (三七八)
 アンチモンの鑑識法(マーシユ
 の)(三六八)
 アンチモン化水素スチブーン
 (三七〇)
 アンチモン酸(三九七)
 安息香(四八四)
 安息酸(カルボキシルベンジン)

(四八三)

安全燈(四四六)
 アンモニア(三二四)
 アンモニアの處在(三二四)
 アンモニアの性質(三二七)
 アンモニアの組成(三三三)
 アンモニアの製造法(三二八)
 アンモニア水(三一五)
 アンモニアの有機分岐体(四六〇)
 アンモニウム(三二二)
 アンモニウム化合物の組成
 (三二二)
 アンストラシン(四八六)

七

砂糖炭(四一五)

醋酸(四七一)

醋酸(四七一)
 醋酸醱酵(四七二)
 醋酸アルデヒド(四七〇)
 醋母(四七二)
 サマリウム(四〇五)
 酒の組成(四六六)
 酸(二〇三三三)
 酸の定義(二二三)
 酸の鹽基度(二二七)
 酸素(七七)
 酸素の處在(七七)
 酸素の製法(七七)
 酸素の物理學的性質(八二)
 酸素の化學的性質(八三)
 酸素と水素との化合熱(一一三)
 酸素中に於ての燃焼(八五)

酸素水素の容積と其化合して成
 れる水蒸氣の容積との比例
 (二〇九)

酸化(緩慢なる)(八八)
 酸化物(九五)
 酸化作用(一〇八)
 酸化劑(一〇八)
 酸化焰(四四二)
 酸化エチル(エーテル)(四六七)
 酸化窒素(三四四)
 酸鹽化蒼鉛(四〇二)
 酸鹽化磷(四七五)
 酸鹽化アンチモン(三七九)

酸性の反應(二二二)
 酸性鹽(三二九)
 酸性酸化物(九五)
 酸鹽化ヴァナヂウム(四〇三)
 三鹽基酸(三二九)
 三硫化アンチモン(三九九)
 三硫化砒素(三九六)
 三硫化蒼鉛(四〇二)
 三沃化砒素(三七七)
 三沃化メタン(四五二)
 三鹽化チタン(五三二)
 三鹽化磷(三三三)
 三鹽化ヴァナヂウム(四〇三)
 三鹽化ヂヂミウム(四〇四)
 三鹽化蒼鉛(三八〇)
 三鹽化砒素(三七七)

三鹽化サマリウム(四〇五)
 三鹽化メタン(クロロホルム)
 (四五二)
 三鹽化アンチモン(三七八)
 三鹽化セリウム(五三三)
 三酸度鹽基(三三〇)
 三酸化窒素(三四七)
 三酸化硫黃(二八六)
 三酸化磷(三八二)
 三酸化蒼鉛(四〇二)
 三酸化ヴァナヂウム(四〇三)
 三酸化ヂヂミウム(四〇四)
 三酸化アンチモン(三九七)
 三酸化サマリウム(四〇五)
 三酸化砒素(三九二)
 三酸化鹽素(二〇四)

三酸化テルリウム(三〇〇)
 三酸化クロム(三〇二)
 三酸化セリウム(五三三)
 三メチルアミン(四六二)
 三弗化砒素(三七七)

木の乾餾法(四一六)
 氣體密度測定法(二四六・二四九)
 吸氣器(三八三)
 旗火石(五三〇)
 蟻酸(四五四)
 蟻酸アルデヒド(四五四)
 キップ氏瓦斯發生器(二七二)
 均等系列(四三二)
 均等化合物(四三二)

均等化合物生成ノ理(四三三)
 金屬硫化物の構造(二七八)
 金屬水酸化物の構造(二七八)
 金系工鑽(五三二)

ゆ

ユーチオメートル(三三)
 雄黃(三六四)
 油煙(四三三)
 有機物の燃焼腐敗醗酵(四八八)
 有機酸の鹽基度(四六〇)

め

メチルアルコール(四五二)
 メチルアルデヒド(四五四)
 メチルベンジン(トリユイーン)
 (四八五)

メチル根(四五〇)

メリニット(無煙火藥(四八二))
 メタ、チタン(五三三)
 メタ磷酸(水狀磷酸(三八九))
 メタ磷酸カルシウム(三五七)
 メタ、アンチモン酸(三九七)
 メタ砒酸(三九二)
 メタン(沼氣(四四六))
 メタン均等系列(四三四)
 メタン分岐体(四四六)
 メタン分岐体の構造(四五五)
 瑪瑙(五二四)
 綿火藥(三三九)

み

磨砂(五二五)

水(一一五)

水の處在(一一五)
 水の物理學的性質(一一五)
 水の化學的性質(一一九)
 水の溶解力(一二二)
 水の式及び反應量(六五)
 水の潜熱(二一八)
 水の重量と之を組成する酸素水
 素の重量との比例(一二二)
 水の試験法(一二六)

し

七屬元素の通論(二四〇)
 七屬元素の提要(二六二)
 四磷化水素(三六二)
 四屬元素(四〇九)

四屬元素の(二五二)	硝酸の性質(三三五)	臭素の處在及ひ製法(二四三)
四屬元素の提要(五三五)	硝酸の有機物に於ける作用(三三七)	臭素の性質(二四四)
四鹽基酸(二三〇)	硝酸の金屬に於ける作用(三三九)	臭素の水酸化物(二四七)
四鹽化ヅアナヂウム(四〇四)	硝酸の木炭に於ける作用(三四〇)	臭素酸(二四八)
四鹽化チタン(五三二)	硝酸ポタシユムの還元(三四二)	臭素酸ポタシユム(二四八)
四鹽化硅素(五一八)	硝酸鹽類の還元(三四二)	臭素水(二四四)
四鹽化ソリユム(五三四)	硝酸鉛の分解熱に由て(三四八)	臭化エチル(四六五)
四鹽化ジルコニユム(五三二)	硝酸アンモニユムの分解熱に由て(三四二)	臭化水素(二四六)
四酸化燐(三八二)	硝石(三三四)	酒石酸ポタシユムアンチモン(三九八)
四酸化蒼鉛(四〇〇)	笑氣(三四四)	酒精(四六六)
四酸化アンチモン(三九八)	助燃物(八七)	獸炭(四二〇)
消藥(二八六)	蒸餾器(一二七)	シヤノゼン(五〇六)
昇華(二五二)	蒸餾水(二二七)	シヤン(五〇六)
硝酸(三三四)	臭素(二四三)	シヤン根(五〇七)
硝酸の處在製法(三三四)		シヤン化ポタシユム(五〇七五二)

シヤン化銀(五〇七五二)	人工藍(四八七)	氷狀醋酸(四七三)
シヤン化水素青化水素(五〇九)	ひ	水晶石(二五六)
シヤン化水銀(五〇八)	ピロ硫酸(二九六)	漂白粉(二〇六)
シヤン酸(青酸)(五二一)	ピロ燐酸(三八九)	標準温度(七四)
シヤンパン(四九二)	ピロ、アンチモン酸(三九七)	標準氣壓(七五)
ジルコニユム(五三二)	ピロ砒酸(三九二)	比重(一一七)
ジルコン鑽(五三〇・五三三)	ヒドロキシルベンジン(石炭酸)(四八〇)	砒素(三六四)
次亞燐酸(三八四)	ヒドロキシラミン(三三〇)	砒素の處在(三六四)
次亞鹽素酸(二〇五)	ヒドラジン(三三三)	砒素の性質(三六四)
次亞鹽素酸カルシユム(漂白粉)(二〇六)	ヒボ燐酸(三八二)	砒素の酸化物(三九二)
次亞鹽素酸ソヂユム(二〇六)	ピクリン酸(四八二)	砒素の水酸化物(三九二)
次亞硝酸(三三三)	ピクトルマイエル氏氣體密度測定法(二四九)	砒素のハロゼン化合物(三七七)
次亞臭素酸(二四八)		砒素の鑑識法(マーシユ)(三六八)
週期律(三三三・三三九)		砒化水素(アルシオン)(三六五)
新材の乾餾法(四一六)		砒硫化鐵鑽(三六四)
		砒酸(三九五)

砒石(三九二)
 比熱(一五三)
 比熱表(一五五)
 比熱に依て原子量を測定する法
 (一五三)
 燧石(五二四)
 ビールの組成(四六六)

も

モリブデン(三〇〇)
 モリブデン酸(三〇〇)
 木炭(四一四)
 木炭の組成表(四一七)
 木炭の性質(四一八)
 木炭の吸収力(四一八)
 木炭の消毒力(四一九)

木炭の製法(四一五)
 木炭の薪材より得る量(四一七)
 木醋(四一六)
 木精(四五四)

せ

生成熱(九二)
 正鹽(二二九)
 成鹽基性元素(二〇二)
 成鹽基性金屬(二二二)
 生油氣エチリン(四七三)
 靑素(五〇八)
 靑化水素シヤン化水素(五〇九)
 靑酸シヤン酸(五二二)
 成酸性元素(二〇二)
 セリウム(五三三)

セルマニウム(五三四)
 セレニウム(二七八)
 セレニウムの處在性質(二七八)
 セレニウムの酸化物及水酸化物
 (二七九、二九九)
 セレニウム酸(二九九)
 石墨(黒鉛)(四一三)
 赤磷(三六〇)
 赤磷の製法(三六一)
 石黄(三六四、三九六)
 石炭(四二四、四八九)
 石炭の種類(四二四)
 石炭の組成表(四二六)
 石炭瓦斯(四三六)
 石炭瓦斯の組成(四三七)
 石炭瓦斯の製法(四三七)

石炭瓦斯製造の副産物(四二六)
 石炭酸(四八〇)
 石油(四二四、四三〇)
 石灰石(四二二)
 石灰燈(二一四)
 石英(五一五、五二四)
 石膏(二六七)
 纖維素(三三九)
 潜熱(二一六、二一八)

す

酢(四七三)
 水素(九六)
 水素の處在(九六)
 水素の製法(九七)
 水素の物理學的性質(一〇三)

水素の化學的性質(一〇五)
 水素の酸素との化合熱(一一三)
 水素瓦斯の擴散(一〇四)
 水素酸素の容積と其化合より成
 れる水蒸氣の容積との比例
 (二〇九)
 水素酸素の重量と其化合より成
 れる水の重量との比例(一一二)
 水硫化物(三七七)
 水溶液(二二二)
 水蒸氣(一一五)
 水蒸氣の潜熱(一二六)
 水晶(五二四)
 水化セレニウム(二八〇)
 水化テルリウム(二八二)
 水酸根(二九八)

水酸化蒼鉛(四〇二)
 水酸化クロム(三〇二)
 水酸化アンモニウム(三一九)
 水酸化ソリウム(五三四)
 水酸化メチル(四五二)
 水酸化ジルコニウム(五三三)
 水酸化ビスミシル(四〇〇)
 吹管(四四四)
 スチブーン(アンチモン化水素)
 (三七〇)
 スクモ(泥炭)(四二五)
 炭(四一四)
 墨(四二四)
 炭窯(四一五)
 錫(五三四)
 錫族元素の提要(五三六)
 煤(四二三)

47-4

明治廿六年四月十日印刷
同 年四月二十日出版



西
程
登
錄

(中華化學教科書上卷)

定價金壹圓參拾錢

東京市本郷區駒込四丁目拾番地
吉田彦六郎

東京市日本橋區大町三丁目十七番地
金港堂書籍會社

東京市日本橋區龍泉寺四百拾番地
原亮三郎

東京市日本橋區本町三丁目十七番地
日置九郎

同
金港堂書籍會社

大坂市東區南本町四丁目二百廿一番地
金港堂

宮城縣仙臺市國分町五丁目卅一番地
金港堂

東京市京橋區築地二丁目十七番地
東京築地活版製造所

著作者

發行者

代表者

印刷者

發行所

大賣捌

印刷所

賣販具器書圖校學

金港堂
書籍會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

金港堂

大阪市東區南本町四丁目二百二十一番地
宮城縣仙臺市國分町五丁目百三十一番地

編輯所

東京市日本橋區本兩替町十一番地

圖書及學校用器具御注文其他一切の御取引は關西各地は大坂金港堂へ關東向は東京金港堂書籍會社へ又東北各地は仙臺金港堂へ御便宜御注文被下度。御注文品は可成均廉價を主とし迅速御遞送可申上候。東京金港堂書籍會社へ郵便爲替を以て御送金は東京郵便局宛御振込被成下度。圖書雜誌共郵券代用は總て一割増御送附被成下度候

尋常師範學校中學校教科書及參考書

● 秋山四郎編 漢文讀本 定價 七拾六錢册	● 實學博士松村任三著 實驗植物學入門 定價 貳拾五錢册	● 生理學博士飯島航著 動物實驗初步 定價 貳拾五錢册	● 生理學博士渡邊讓述 普通植物學 定價 六拾五錢册	● 生理學博士松村任三著 植物ノ内景及生理 定價 拾八錢册	● 岡田信利編 日本動物總目錄 定價 四拾五錢册	● 農學士菊池熊太郎編 普通植物學 定價 七拾五錢册	● 理學士中村精男編 三谷田部梅吉編 三角法階梯 定價 八拾錢册	● 森島修太郎著 簿記學 定價 四拾五錢册	● 上野清述 代數學 定價 五拾錢册	● 幾何作述 幾何學 定價 五拾錢册
● 手島春治著 日本文法教科書 定價 參拾五錢册	● 平瀬作五郎編 新用器書法 定價 八拾八錢册	● 新用器書法解説 定價 四拾錢册	● 井上十吉著 英學士高田早苗著 英文讀本 定價 壹圓貳拾五錢册	● 文學士高田早苗著 美學士高田早苗著 應用教新論 定價 九拾五錢册	● 應守謙吾著 三宅米吉著 益軒ノ教育法 定價 四拾錢册	● 高須治輔編 初等教育學 定價 參拾五錢册	● 理學士渡邊讓述 藤氏地理學教授法 定價 六拾五錢册	● 金港堂編輯所編 學校管理理法 定價 參拾五錢册	● 峯三郎著 教學之準備法 定價 參拾五錢册	● 山田邦彦著 改正單級教授法 定價 參拾五錢册

學 校 圖 書 器 具 販 賣

金港堂
書籍會社

金港堂

編輯所

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

大阪市東區南本町四丁目二百二十一番地
宮城縣仙臺市國分町五丁目百三十一番地

東京市日本橋區本兩替町十一番地

圖書及學校用器具御注文其他一切の御取引は關西各地は大坂金港堂へ關東向は東京金港堂書籍會社へ又東北各地は仙臺金港堂へ御便宜御注文被下度。御注文品は可成の廉價を主とし迅速御遞送可申上候。東京金港堂書籍會社へ郵便爲替を以て御送金は東京郵便局宛御振込被成下度。圖書雜誌共郵券代用は總て一割増御送附被成下度候

尋常師範學校中學校教科書及參考書

● 秋山四郎編 漢文讀本 定價 七拾六錢	● 實學博士松村任三著 實驗植物學入門 定價 貳拾五錢	● 生理學博士飯島魁著 動物實驗初步 定價 貳拾五錢	● 理學博士渡邊讓述 普通理化 定價 六拾五錢	● 理學博士松村任三著 植物ノ內景及生理 定價 拾八錢	● 岡田信利編 日本動物總目錄 定價 四拾五錢	● 農學士菊池熊太郎編 普通植物學 定價 七拾五錢	● 理學士中村精男編 理學士谷田部梅吉編 三角法階梯 定價 八拾錢	● 森島修太郎著 簿記學 定價 四拾五錢	● 上野清述 代數學 定價 五拾錢	● 幾何級作述 代數學 定價 五拾錢			
● 手島春治著 日本文法教科書 定價 參拾五錢	● 平瀬作五郎編 新用器書法 定價 八拾八錢	● 同編 新用器書法解説 定價 四拾錢	● 井上十吉著 非上十吉讀本 定價 壹圓貳拾五錢	● 英文學士高田早苗著 美文讀本 定價 壹圓貳拾五錢	● 美守謹吾著 應用教新論 定價 九拾五錢	● 應宅米吉著 三宅米吉教育法 定價 五拾五錢	● 益軒ノ教 益軒ノ教 定價 四拾錢	● 高須治輔譯 初等地理學 定價 參拾五錢	● 理學士渡邊讓譯 蘇氏地理學教授法 定價 參拾五錢	● 金港堂編輯所編 學校管理法 定價 參拾五錢	● 學具之準備法 學具之準備法 定價 參拾五錢	● 山田邦彦著 單級教授法 定價 參拾五錢	● 正單級教授法 正單級教授法 定價 參拾五錢

新教育學新教授及新心理學の廣告

英國高等師範學校教授、コムベール著
 日本マストル、オプ、アーツ能勢榮著

根氏教授論 上 下
 全貳冊 本綴定價各五拾錢

根氏教授法
 全壹冊 本綴定價八拾錢

英米の教育書は既、陳腐に歸し、今や獨佛の教育書世に出でんとす。開說高等師範學校教諭土方勝一氏は先般官命を負ひ教育學研究の爲佛國に留學せられしと其師と仰ぐは現今佛國高等師範學校教授たる教育家の泰斗コンペル氏なり。本國に留學せられしと其辯論の明確不偏毫も極端を走らざる事書は則氏の近著に係る理論と實踐の教育學に於て其材料の撰擇聰明適切尙も教育家たるもの知らざる可らざる事記述し其心理學論理學を教育に應用し其適度を得たる事教育學及教授術の教科書として斬新秀逸なる事等英米教育書の速く及ばざる所也。佛國の泰斗コンペル氏獨得の換骨脱胎の譯文原著者の名を蔽へば獨り其著述と異ならざるのみならず文章は流暢簡明よく原文の意義透徹し少しも借借滯滞する所なし左に本書の目次を掲げ尋常師範學校教科書小學校教員の參考書として必需欠くべからざることを江湖の讀者に告ぐ。

教授法(一)教育總論(二)體育(三)知育(四)感覺の教育(五)注意力の練習(六)記憶力の練習(七)想像力の練習(八)反省力、斷定力、抽象力、推理力(九)感應の練習(一〇)德育(一一)意志自由及習慣(一二)高等論(十三)教育總論(十四)讀方及習字教授法(十五)實物指教(十六)國語の學習(十七)歴史教授法(十八)地理教授法(十九)算術幾何及理科教授法(二十)道徳及國民要務の教授法(二十一)圖畫音樂唱歌教授法(二十二)手工裁縫(二十三)體操及商業教授法(二十四)實習(二十五)附録(甲)記憶法(乙)分解法及總合法(丙)初等讀方の問題(丁)題目の價值

佛國高等師範學校教授、コムベール著
 日本マストル、オプ、アーツ能勢榮著

根氏心理學 全壹冊 本綴定價九拾錢

心理學の出版からすとも雖多くは哲學を修むる爲或は單に心理學を學ぶ用に出版せられたるものにして兒童を教育する教師の實用に適應するもの極て少し。元來教師實用の心理學はハイン氏サリ氏

の如き混淆空漠たるものにあらずして其最要點を撮取して直に之を教育に應用するものなりかの尋常師範學校學科程度に於て**心理學大要ヲ授ク**とあるは則此事なり。近時有名なる佛國の教育家の泰斗コンペル氏は此目的に應じたる爲に師範學校用の心理學を新著せしに米國のダナルコニー、ペン、ベイン氏は直に之を翻譯し已に米國各州州師範學校に於ては普く之を採用し居れり本社編輯に紐書肆に注文して之を求め能勢榮氏に請ふて例の獨得流暢文を以て譯述し已に刻成り發賣せり請ふ尋常師範學校教科書小學校教員の參考書に陸續採用を賜へ。

目次
 總論(一)心理學の目的、心理學上事實の分類(二)身體上の動作、運動、本能、習慣(三)身體上の感性、快樂と苦痛、感覺と感應、缺乏と倦怠(四)智力、一類智力の區別(五)意識と注意(六)外部知覺(五官)(七)記憶力の分解及其現象の説明(八)觀念、聯合の理法(九)想像力及其種々の状態(一〇)抽象力及概括力の抽象の念、概念的念、二斷定力及推理力(一一)道徳觀念及其眞理(一二)言語及言語と思想との關係(一三)道徳の觀念、個人的傾向(一四)社會的傾向(一五)社會的傾向理想的傾向(一六)意志及習慣(一七)自由及道徳論(一八)心理學の結論、身體と心意

尋常師範學校教科書教員參考書

マストル、オプ、アーツ、能勢榮著 ●訂正 ●五版 ●教育 ●學 ●全 ●貳 ●冊 ●定價 ●壹 ●圓 ●八 ●拾 ●錢

全 ●全 ● 濟 ●著 ●訂正 ●六版 ●學校 ●管理 ●術 ●全 ●壹 ●冊 ●定價 ●壹 ●圓 ●七 ●拾 ●錢

氏の教育の理に明かに教授の道に経験ある世の知る所なり本書を著述するに先ち故森文部大臣は氏の福島縣師範學校校長を辭さしめ文部省書記官に任用して本書を大成せしめんをせられし位にてありしとや然るは故ありて文部省の出版は見合せられしと見へ終に氏の手に戻れり弊社請ふて羅に出版し已に訂正五版まで世に公にするに至れり又學校管理術も教育學に引きつゞき氏は長日月を費し著述の勞を採られ大成を告ぐるや愛讀日増し已に六版に上り洛陽の紙價爲に高きを告げ一大壯觀ども申すべきか

第五高等中學校教授 大瀧甚太郎著 ●改教 育 學 全 壹 冊 定價金 六拾錢

教育學を論ずるものは哲學心理學倫理學等の理を究め浩大の學識と強健の思考とを有せざるべからず又これを實行する者は精細の觀察と多年の經驗とに據らざるべからず氏は曾て大學に在り専ら教育に關する哲學を研究し業成り任に高等中學教授にあり今や教育學に有名なるヘルバルドの新主義を數年間學習の識見と思考に照し目下の經驗觀察に徴し漸く茲に稿を脱するに至れり乞ふ教育に従事する諸君御購讀の榮を賜はんことを

尋常師範學校中學校教科書及參考書

文科大學教授、文學博士 元真勇次郎著 ●版 心 理 學 全 壹 冊 定價金 七拾錢

本書ハ本邦人の習性を研究し心理の濫泉を論ずるに詩歌を應用し物理的一種獨特の卓見を創出せしものにして本邦心理書の嚆矢なり今や版を重ねる參回請ふ尋常師範學校教科書小學校教員の參考書として益々採用を賜へ

文科大學助教授 藤田三郎著 ●訂正 日 本 文 學 史 全 貳 冊 定價金 貳圓

本書ハ國文全体の起源發達及び變遷を敘述し古今諸体の文章及び歌の中標準となるべきものを掲げ本邦文學史の嚆矢たり請ふ尋常師範學校中學校の教科書には勿論荷も文學嗜好の士は愛顧を垂れられ

第一高等中學校教授 高津誠三郎著 ●版 日 本 中 文 典 全 壹 冊 定價金 六拾五錢

本書は全編を總論單語法文章法の三大部に分ち國語の成立より國語の組織に至るまで一々實例を掲げて叮嚀に説明したるものにして最も師範學校中學校の國文科教科書として適當なるものなり開版以來日淺くして已に版を改むる第四回に至れり請ふ國文國語に志しある人の猶一層の愛顧を垂れられ諸學校に於ても教科書として採用の榮を賜へ

理科大學教授 湯原元一編 ●再 平 面 幾 何 學 全 壹 冊 定價金 六拾五錢

本書は倫敦大學教授ヘンリソンの初等幾何學を譯述し世上に有りふれたるユークリットの幾何學を根據とせし専ら近世幾何學の方法に據り基本的に差異あること則ち本書の特色なり請ふ教員の職に與る士の勿論通例の教科書に就き幾何學を修めたる人此書を讀み所見を廣くし幾何學の真相を知り給はんことを

マストル、オブ、アーツ能勢榮著 ●六 實 踐 道 德 學 全 貳 冊 定價金 壹圓貳拾錢

此書は勸語を以て基本と爲し我が國中等教育の修身教科書に充用せんことを主とし須く日本國民の遵守すべき各種の義務と普通道徳の理論とを文明の學理を照し懇切に説明したるものにして能勢榮氏が此書を著述せらるゝや力を盡し勞を辭せし稿を起し懇切に訂正改竄し一年漸くして大成するに至れるものなり世間勸語は就き解釋書は夥多ありと雖も未だ孝友 和信 恭儉 博愛 等の事を實行せしむる方法を明白に説明したる書は絶てあるとなし請ふ各地尋常師範學校中學校の教科書及び小學校教員の參考書として必需缺くべからざるは勿論荷も日本國民たるものは何の職業を問はず必ず購讀せざる可らざる書なり本書出版以來漸く一年ならずして早くも六版を重ねるに至り本書の中等教育用に獨歩の修身教科書たることを思ふべしなり

山口高等中學校教授 湯原元一編 ●再 普 教 授 新 論 全 壹 冊 定價金 五拾錢

本書ハ獨國ノ教育家「カ」氏ノ新著教育學ニ據リ傍ラ數多ノ教育學教授術學校管理法ヲ參照シ主トシテ「カ」氏ノ著述ニ據リ「カ」氏ノ教育主義ヲ祖述シ其目的新教則ノ精神ヲ貫徹スルノ最良手段トスルニ在リ「カ」氏ノ著述ニ據リ「カ」氏ノ教育主義ヲ採用スル獨國ノ教育法ニ淵源スルハナリ左ニ本書ノ特質ヲ掲ケ大方諸君ニ告グ ●多方興味教授ノ統一五段教授等ニ於テ「カ」氏ノ著述ニ據リ「カ」氏ノ精神ヲ發揮シタルコト ●各學科共ニ皆ソノ五段教授ノ適例ヲ示シタルコト ●例證ハ悉ク本邦固有ノモノニ據リ枚舉シタルコト ●每編新教則ノ條文ヲ引キ之ト相發明スベキ論述ヲナシタルコト ●凡テ新教則ノ精神ヲ貫徹スルニ意ヲ用ヒタルコト ●文章ハ暢達ヲ主トシ譯文風ヲ避ケタルコト

理學士大森俊次編 ●新算術教科書 再全二冊 上本綴定價金八拾錢 下本綴定價金八拾錢

本書は専ら中等教育の教科書に充用せん目的を以て編纂し定義を掲ぐるに確實周密を旨とし定理を證明するには論理嚴正に且つ推新完結し又規則を授くるに簡單明白の言辭を用ひ度量衡に關する名稱單位等は本年壹月より施行の法制に依るのみならず各例題集の前には必ず武參の適切なる例を掲げ稱六つかきものには解式を附載し尙解答繁冗に渉るものは卷末に附綴せる答の部に於て證明し別に各節の末に●第壹高等中學校●郵便電信學校●陸軍士官學校●理科大學簡易講習科●特別認可學校●商船學校●江田島海軍學校等の入學試験問題等を登載し編者が曾て大學校及尋常中學校其他の諸學校講習會等に於て講述せし歐洲諸博士の各書より粹を採りて大學校及尋常中學校其他の諸學校に行はるゝ新説を以てしたれば其の論述の事柄證明の方法極めて明瞭最正なるのみならず近時數條の排列順序に於ては荷間然の本書出版の舉を知り寄せられたる書翰の壹句を抄出すゝ特に大森氏ハ以て名ある理學士森氏の本書出版の舉を知り寄せられたる書翰の壹句を抄出すゝ特に大森氏ハ我國ノ數學家中ニテ生ノ最モ敬服スル豪傑ナレバ定メテ好思構モアルナラント存候何卒一日モ早ク氏ガ著ノ世ニ出ツル様御盡力被下度云々亦以て本書の價値を窺ふに足るべし請ふ尋常中學校教師學校の教科書教員の參考書及前記諸大學へ入學志願の學生諸士は勿論其他數學を修むる諸學校に於て就て本書の採用を希冀仕候

理學士富士谷孝雄編 ●中礦物學教科書 再全一冊 本綴定價金五拾錢

今度の尋常師範學校の學科程度を基とし尋常中學校の教科書にも應用せん目的を以て編纂著譯せしものは本書を以て始めとす況んや富士谷學士の筆に成り其立案の斬新にして材料の豊富なる亦他に見るなきに於てをや特に校正は懇篤精密誤脱の憂ひなからしめ挿畫は逐一畫家をして金石標本に據り臨模せしめ新たに一生面を開きたるものなれば其尋常師範學校中學校教科書として最も善良なること敢て誇稱する所なり

學習院教授、湯本武比古譯 ●學校實用心理學 全壹冊 定價金六拾錢

曩に壹編を出版し今や貳編を出版するに際し合せて壹冊とせり譯者湯本學習院教授は未だ獨國に在りて著者マース博士及びボク博士等に就き親しく心理學の淵奥を討究しつゝあるなり左れば能も原意を明晰にし此書を譯するに至られしなり乞ふ尋常一様の譯書と同視すること勿れ

理科大學教授、理學博士松田任三著 ●實驗植物學入門 全壹冊 定價金貳拾五錢

君ノ植物學ニ懷抱スル卓見ハ世ニ隠レナシ今ヤ君ハ實驗ヲ主トシ簡易明瞭ニ此書ヲ著サル請フ愛顧ヲ垂レラレヨ

理科大學教授、理學博士飯島魁著 ●再動物實驗初步 全壹冊 定價金三拾錢

右ハ君ガ教授ノ餘暇實驗的ノ方法ニ據リ專ラ我國普通ノ動物ニ就キ君ノ卓見ヲ表出セラレタルモノナリ

高等師範學校教授、文學士日高眞實著 ●教育ニ關スル攻究 第一 壹編 定價金六拾五錢

第一 小學教育施設模範 第二 教員ノ養成

右教育ニ關スル攻究ノ第一編トシテ已ニ出版セシモノニシテ歐洲今日ノ小學校施設制度ニ於テハ蓋シ佛蘭西ニ勝ルモノナカルベシ此制度ニ準據シテ一地方ニ適スル教育施設法ヲ編制セルハ巴里市ニ勝ルモノナシヨリテ佛蘭西小學校施設法ヲ器述セルモノヲ反譯シ交ユルニ譯者ノ意見ヲ以テシコレヲ第一小學教育施設模範トナシ又今日ニ於ル我邦ノ務ハ小中學校ノ爲ニ良教員ヲ養成スルヨリ急ナルハナシヨリテコレヲ論ジテコレヲ第二教員ノ養成トス請フ愛顧ヲ賜ヘ

金港堂書籍會社編輯所編

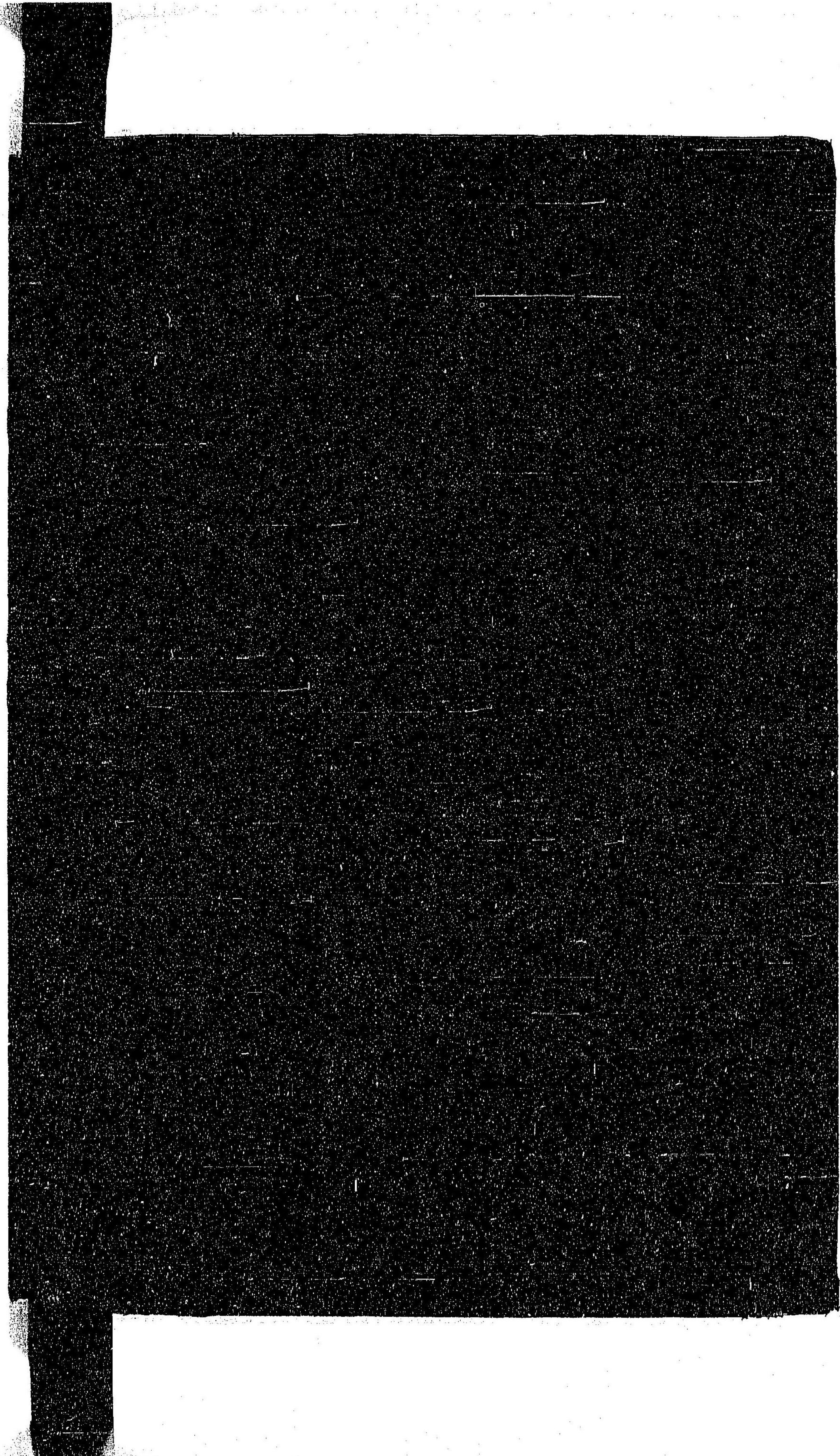
新編 小學教授術

讀	作	唱	理	習	修	地	歷	英	圖	算
書	文	歌	字	身	理	史	語	畫	術	
科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊

定	定	定	定	定	定	定	定	定	定	定
價	價	價	價	價	價	價	價	價	價	價
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
貳	拾	八	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
拾	八	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
二	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
十	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
三	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
十	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
五	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

右は文部省令第八號尋常師範學校學科程度に據り各學科の小學教授術を講述し各地尋常師範學校の
 教員諸氏が生徒を率ひて（それ）擔任の學科を附屬小學に臨み實地に教授試查する資料たるのみなら
 ず新教則に據り小學校に從事する各教員授業生が最も腦漿を絞る教授の方法を記述し各學科の教授術を
 を成し何科にても適宜購讀し得べく其上定價は本級なるにも拘らず低廉を期し漸次全科の教授術を
 大成するものなれば師範學校小學校の教員及授業生諸氏は一日も缺くべからざる便益の漸次全科の
 なり今や出版の際に弘く弊社の用意を告ぐ

47
44





056043-001-9

47-4

中等化学教科書

吉田 彦六郎/著

上

M26

CAJ-0414



